

1. **あなたがたはキリストのからだであって、ひとりひとは各器官なのです。(12:27)**
 - a. パウロはキリストのからだというイメージを使って、私たちはこの地上ではキリストの霊的な手、足、耳、目…であると述べている。イエスがそうされたように、私たちもこの世に神を示していかなければならない。
 - b. 私たちはキリストのからだの一部であるので、純潔を保ち身体的な行動にも気を付けなければいけないと言われたが(1コリント6:15)、ここでは互いの違いの取り扱いに注意し、その違いが健康な教会になるために大切だということが言われている。
 - c. 教会の中の多様性は神がつくられたもので、私たちが補い合って完全になり(共通の良い業のため)、信頼し合い(へりくだり尊敬をもって接する)、互いに助け合う(一人が苦しむ時全員が苦しむ)ために、神は目的をもって一人ひとりをユニークに創られたのである。
 - d. 時に私たちは自分に似た人たちとだけ付き合い、自分と違う人には間違ったレッテルを貼ってしまうことさえある。しかし体には様々な構成部分があるように、キリストのからだにも多くの違う部分がある。神は多様性があり、かつ統一された教会を望まれている。
2. **そして、神は教会の中で人々を次のように任命されました。すなわち、第一に使徒、次に教師、それから奇蹟を行なう者、それからいやしの賜物を持つ者、助ける者、治める者、異言を語る者などです。(12:28)**
 - a. これらの賜物、ミニストリー、働きはやりたいからといって誰もができるわけではない。これらは神によって任命されるものであって、父なる神、イエス、そして聖霊によって現わされる。
 - b. ここに挙げられている順序は重要度というよりは年代順だと思う。ただし私は教会の中では使徒職や預言者の方が権威を持っていたと思う。
3. **みなが使徒でしょうか。みなが預言者でしょうか。みなが教師でしょうか。みなが奇蹟を行なう者でしょうか。みながいやしの賜物を持っているでしょうか。みなが異言を語るでしょうか。みなが解き明かしをするでしょうか。(12:29-30)**
 - a. この問いの答えは「ノー」。異言の賜物だけが聖霊に満たされた証明であると信じる宗派もあるが、なぜこの聖句がありながらその教義が続いているのか疑問である。
 - b. すべての賜物を持っている人はいないが、重複していたり、複数の賜物、ミニストリー、働きを持ち合わせている人はいると思う。
 - c. 神から任命を受けると、それに応じて賜物が与えられる。しかし、その賜物があるからといってすぐにミニストリーのオフィスに申し込みに行くということでもない。賜物は神が私たちに語り導く数多くある方法の一つであり、これに限ったことではない。
4. **あなたがたは、よりすぐれた賜物を熱心に求めなさい。また私は、さらにまさる道を示してあげましょう。(12:31)**
 - a. これらの賜物は誰もが望めばすぐにできるものではないと述べたが、それでも私たちは御霊の現われを熱心に待ち望むよう命じられている。私たちは熱心に御霊の実を結ぶように努め、同じように御霊の現われも熱心に求めるべきである。
 - b. パウロが「さらにまさる道を示す」にあたり、私たちは霊的なものを熱心に求め続けよう。もしそれをしなければ次に見る有名な愛についての章でパウロが言おうとしていることを見失ってしまう。